

# 相続と 生命保険

## 相続問題マンガ教材

民事関係ケーススタディ  
紙芝居



こちらは、A君です。

A君の祖父、おじいさんは、昔、地元で建設会社を作り、現在は二代目であるA君の父親のBさんが建設会社の社長を務めています。

つい先日、この建設会社の会長を務めていたA君の祖父、おじいさんが亡くなり、相続問題が発生していました。



こちらが、A君のお父さんのB社長です。

なにやら、とても困っているようです。



『あー、困った困った。  
いったい、どうしたらいいんだろう』



このとき、ちょうど、A君が帰宅しました。

『お父さん、どうかしたの？とても大変そうだけど』



『おお、おかえり。いやあ、父さん、ちょっと困っててさ。』

こないだ、おじいちゃん、亡くなっただろう。

それでお葬式とか49日とかいろいろやってたらあつという間に時間が過ぎてさ、それから相続税について調べてみたらさ、びっくりしたんだよ。相続税って、すごい高いんだなあって困ってたんだよ』



『そ、そうなんだ、とっても大変な状況なんだね』



『そうなんだよ、困ったよ。』

あー困った困った。まあしょうがない、なるようにしかならないから、今できることをがんばろう』



A君は、お父さんの姿を見て、こう思いました。

『相続って、とても大変なことなんだな。僕も、いずれ、この会社をついで3代目になるかもしれないから、今から勉強しておこう。いったい何の勉強したらいいんだろうか？』



A君はインターネットを見ていました。

『へー、ファイナンシャルプランナーっていう仕事があるのか、へー、相続や事業承継の強い味方、そうなんだ、よし、ファイナンシャルプランナーの勉強をしよう』

# ファイナンシャル プランナー

こうして、A君は、ファイナンシャルプランナーの勉強をはじめました。

そして、お父さんとの間で、こんな会話をしました。



『お父さん、ぼく、ファイナンシャルプランナーの勉強をしてるから、相続や事業承継対策にも取り組もうと思うんだ』



『おお、それはいいな。いっぱい勉強して、父さんにも教えてくれよ』

## 相続税 が高い

生命保険  
の保険金は  
法定相続人  
× 500万  
非課税！！

『父さんが困ったことは、やっぱり、何といっても、とにかく、相続税額が高くて困ったことだな。相続税って、こんなにかかるなんてな。もっと、かしこく、低く抑えられないのかなって思ったよ』

『お父さん、それだったらさ、生命保険の保険金は、税務上は、相続税の計算をするときには、法定相続人の数に500万円をかけた金額の合計額分が、非課税になることがあるんだ。これはとってもお得だよ。現金で持っていたら全部課税されちゃって相続税が高くなっちゃうけど、これなら部分的に非課税にできるみたいだよ』

**特定の相続人  
が受取人  
⇒相続から  
はずれる**

**相続・  
事業承継  
対策資金**

**死亡退職金  
・ 弔慰金**

**『知ってる』  
と  
『得する』**



『しかも、特定の相続人が受取人になっている生命保険の保険金は、民法上は、受取人固有のものになって、相続財産からはずれて、遺産分割手続きとかがいらなくなることもあるんだって』

『そこで、この生命保険金を、相続・事業承継のための資金にすればよいと思うんだ』

『へー、なるほど、そういう制度があるんだ。それは、お得だなあ』

『うん、あと、死亡退職金や弔慰金についても、生命保険の保険金と同じように、節税になってお得になることがあるみたいだから、これらの制度もきちんと整えておくとお得だよな』

『おおー、そうなんだ。なるほどなあ、やっぱり、勉強とかして、『知ってる』と『得』することって、いっぱいあるんだな。それを痛感したよ』

『よく調べてくれたよ。ありがとうな。よし、これで本業に集中できるな。がんばっていこう』



『うん、父さん、僕ももっとがんばる  
よ！！』

<参考>

<コメント>

相続・事業承継の一例を、マンガ形式でお伝えしました。

もちろん、ケースバイケースで、いろいろなパターンや流れがあり得るので、一概には言えないことが多いですが、事前になにも対策しなかった場合に比べて、事前にお得な法制度・ルールをしっかりと確認して対策を講じた場合のほうが、不測の事態を防ぎやすくなり、円滑な相続・事業承継をしやす多いことが多いと思います。

ただし、この分野の法制度・ルールは改正・変更が多くありますので、最新の情報を確認することを推奨します。